



文化財保存・研究センターは講演などにも使われる。この日は地元の子どもの研修授業が開かれていた



遺跡の価値を知る野外研修。地元の子どもたちにとっても、新鮮な発見がたくさんある

世界屈指の豊かな自然 地元のガイドが案内

日本は2012年から、ティカルの観光振興を支援してきた。12年に建設した文化財保存・研究センターは現地調査の拠点になると同時に、観光客向けの展示や講演の場となっている。13年からは中米3カ国の観光責任者を対象とした研修を金沢大学で行い、ティカルからも遺跡の保存責任者と住民連携の責任者の両方が参加した。このとき、各国が観光資源の保全と活用に向けたアクションプランを作成。それを実行に移すための草の根技術協力として、金沢大学



「この地の自然を案内する新たなガイドになりたい」と、地元住民のモチベーションも高い

from Guatemala グアテマラ

世界初の複合遺産 地元とともに次世代へ

17世紀に発見されたときには、すでに住民がいなかったマヤ文明最大の遺跡ティカル。その周囲には鳥をはじめとした多彩な動植物が集まる豊かな自然がある。歴史と自然の恵みを地元と共有する試みに、金沢大学が挑む。

荘厳なマヤ遺跡の傍ら 水道すらない生活

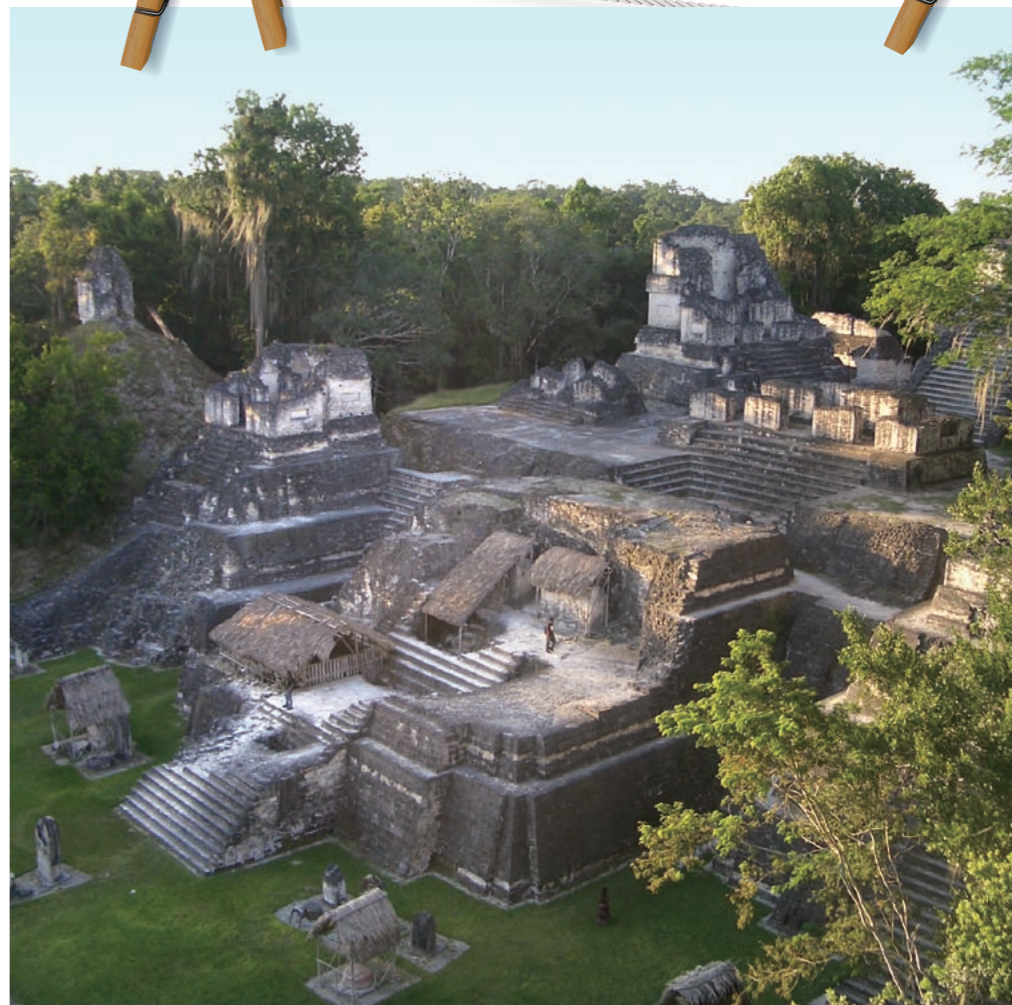
572平方キロメートル。面積で東京23区に迫る広大な森林に、9世紀ごろ滅びた大都市の名残が埋もれている。マヤ文明最大の遺跡は、グアテマラの「ティカル国立公園」として、1979年、初の世界複合遺産としてユネスコに登録された。グアテマラ政府も登録直後から観光地として開発を始め、現在では年間20万人が訪れる同国屈指の観光地だ。

「世界複合遺産では、遺跡だけでなく自然も保護しなければなりません」と、金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究所センターの中村誠一教授は説明する。「観光客は最寄りの空港があるフ

ローレスという町から、バスで1時間程度かけて遺跡を見に来ます」

フローレスからティカルまでは60キロほどの距離。車中から見える風景を撮った一枚の写真を、中村教授が見せてくれた。「道路脇にあるこの大きなタンクは、現地に住む人たちの水がめです。週に2回、給水車がこのタンクに届ける水と、雨水以外に、このあたりには水を得る手段がないんです」

ティカル国立公園のあるペテン県は、グアテマラで最も貧しい地域で、多くの住人は細々と自給自足の生活を送っている。生活のために、公園内での密漁や伐採、盗掘などに手を染める人もいる。住人自らが遺産を傷つけているのだ。



密林の中に数々の建造物が散らばる。雄大な自然と人の歴史が共存しているのが「世界複合遺産」の特徴だ



ティカル国立公園
グアテマラシティ



この地域には水道がない。給水車が運んできた水をタンクに貯めて使う

が「世界複合遺産『ティカル国立公園』の保存と活用を通じた住民の生活上支援プロジェクト」を手がけることになった。

プロジェクトが目指すのは、「地元住民が遺跡を観光資源として活用し、恩恵を受けること」。その取り組みは、地元住民にティカルを知ってもらうことから始まった。

ティカル遺跡が発見されたときには当時の文化を引き継ぐ人たちはすでにおらず、現在の住民は別の地方から移住してきていた。そのため、地元の住民たちはティカル遺跡を他人事のように感じている。公園に近い三つの集落には4000人近くの住民がいるが、公園で働いている人はわずかだった。

そこで、プロジェクトではまず観光ガイドを育成することにした。中村教授は、「この地域には野鳥やジャガーなどの野生生物がたくさんいますが、遺跡があるせいで自然観光はなおざりにされていたのです」という。この隙間を地域住民が埋めていこうという計画だ。ガイド研修の第1期生は約20人。ほぼ全員が第2期コースに進んだ。

遠い昔の誰かの遺産を今の自分たちの財産に

もうひとつ、住民に遺跡を知

てもらうために始めたのが、地元の小中学生向けの遺跡見学だ。

三つの集落はすべて遺跡から10キロメートル以内にあるのだが、住民の中にはティカル遺跡を訪ねたことがない人たちもいる。そこで、専門家が子どもたちを連れてティカル遺跡を案内する体験学習コースを開催した。自分の目で遺跡を見て知る授業は子どもたちに大好評。これをきっかけに興味を持ち、「遺跡に関する仕事をしたい」と答えるようになった子どももいる。こうした子どもたちが増えれば、遺跡を自分たちの財産として活用する考えが浸透すると、中村教授は考えている。

一連の活動の延長に、遺跡の発掘・修復への住民参加がある。地元の人たち、特に手先の繊細な女性を中心に発掘技術を身につけ、発掘を手伝ってもらうのだ。中村教授は、「この地域には数多くの遺跡があり、調査が必要だけでなく、政府も観光地として活用したいと考えています。まもなく始まる研修を通して、地域住民が発掘・修復技術者として現場を支えられるようになれば、新たな住民の天職が生まれると同時に、地域の観光開発にもつながります」とメリットを強調する。

この地を訪れたら、古代の歴史を語る遺跡だけでなく、自然や地元の生活にも目を向けてほしい。



民芸品製作講習を通して、観光客をひきつけるための創意工夫も行われている